

今の時期に聴いてほしい演奏会。

コロナネットの響き、奏者の息づかい、作品の美しさ、それらすべての刺激を体感してもらいたい。

結成8年目を迎えたアンサンブル天下統一が、シビックセンター20周年の年にお届けするのは、コロナネットだからこそ聴くことのできる美しく刺激的なプログラム。本公演の前に、チェロの中木健二さんにコンサートに込めた想いを語っていただきました。

―公演のテーマを教えてください。

今回のテーマは、「ドイツ音楽の光と影」です。これまでの天下統一のコンサートでは多くの場合、一番大きな編成の曲から組み立てますが、今回は以前から演奏したい作品だったブラームスの「ピアノ四重奏曲第2番」を軸に、アンサンブル天下統一3人それぞれが候補を出し合いました。

―それぞれの作品に

込められた思いは。

ブラームスは有名ですが、「ピアノ四重奏曲第2番」はその演奏時間の長さから演奏機会が少ない曲です。僕自身も演奏会では数回聴いた程度です。しかしこの曲のメロディーは本当に美しい。特に2楽章の天から音が降りてくるような、この世の

ものとは思えないほど美しいメロディーは、3人ともとても気に入っています。そして、この曲を表現してくれるピアノリストはドウヴァイヨン氏以外考えられませんでした。彼は素晴らしいピアニストであり、ベリリンやジュネーブで多くのピアニストを輩出しているピアノの名教師としても名高い方です。10年以上前にオランダで聴いた、ドウヴァイヨン氏が演奏するブラームスの「ピアノ四重奏曲第3番」はまるでオーケストラを聴いているかのようにでした。ドウヴァイヨン氏の中で緻密に組み立てられた音楽を奏でていて、もしこれがオーケストラの演奏であるならば、指揮者は間違いなく彼でした。その演奏は言葉にならない衝撃であったことを今でも鮮明に覚えています。

ヒンデミットの作品も以前から演奏したかった曲ですが、これまで岡崎で演奏してきた曲に比べると、前衛的な曲です。でも決して小難しい曲でも聴きにくい曲でもありません。そもそも我々アンサンブル天下統一のような弦楽トリオはカルテット（四重奏）に比べると常設のアンサンブルも弦楽トリオの作品も多くありません。その中で20世紀に大活躍した弦楽トリオが1つあり、それが当時のベルリン・フィル首席コンサートマスターのシモン・ゴールドバルク、同じく当時を代表するチェリストのエマヌエル・フオリアマン、そしてヴィオラは、作曲家であるヒンデミット本人のトリオでした。ヒンデミットは作曲家であり、名ヴァイオラ奏者でした。そんなヒンデミットが、数少ない弦楽トリオという編成で自分たちが演奏するために書いたであろうこの作品を、どんな思いで作曲したのか、大変興味深く感じています。そして、この作品をどのように演奏するのかは、アンサンブル天下統一にとって挑戦でもありません。何より、弦楽三重奏として結成しているグループでないと演奏できない曲なので、我々にしかできない、うってつけの曲だと思います。

ほぼ同時代にドイツで活躍したブラームスとヒンデミットですが、まるで光と影のように対照的な2作品がどんな演奏効果を生むのか、僕自身もドキドキしています。どちらも生演奏で聴かないと面白くない、アンサンブル天下統一のホームであるコンサートホールコロナネットだから味わえる「音が天から降りてくる響き」を体感してほしい作品です。皆さんにも、ヒンデミットでドキドキして、ブラームスでそのドキドキから解放されるような、「ドイツ音楽の光と影」を感じてもらえたら嬉しいです。

―来場される方にメッセージを

今もまだ海外旅行に行けないとか、誰かと何かを共有できないとか、何か刺激が足りないとか皆さん思っていると思います。だからこそ今、この演奏会を聴いてほしい。体の内側からワクワクしたり、鳥肌が立つような緊張感、涙が出るほど美しい旋律やハーモニー、そういった刺激を味わう演奏会にしたいと思っています。そして聴き終わった後に残る、なにかは、いままでより大きいと確信しています。

クローズアップおかざき アンサンブル天下統一 2021

2021年10月2日(土) 15:00開演

出演：アンサンブル天下統一

〔中木健二(チェロ)、
長原幸太(ヴァイオリン)、
鈴木康浩(ヴィオラ)〕

バスカル・ドウヴァイヨン(ピアノ)

曲目：ヒンデミット/弦楽三重奏曲 第2番

ブラームス/ピアノ四重奏曲 第2番 イ長調 Op. 26

料金：【全席指定】一般3,500円

学生(25歳以下)2,000円 [クラ割引](#)

